



廣瀬祐宏 団長

川瀬麻由美 芸術監督

2009年4月に結成され、今年で12回目の定期演奏会(以下定演を迎える iichiko グランシニアタ・ジュニアオーケストラ。3月28日(日)の演奏会を前に、廣瀬祐宏団長(iichiko 総合文化センター館長)と、川瀬麻由美芸術監督(大分県立芸術文化短期大学教授)に思いを語っていただきました。

## みんなで音楽をつくりあげる ジュニアオーケストラの醍醐味



—約10年間の実績、思い出に残る場面などをお話しいただけますか。

川瀬 一回一回が思い出深いです。オケが発足した最初のリハーサルで、私が指揮台に立って一音目が出た瞬間、不安がすべて払拭されたのを覚えています。東日本大震災直後に行った第2回、私自身がソリストとして子どもたちとステージに立った第5回、また、前回の第11回はコロナ禍で延期になって落胆しましたが、昨年8月

に無事開催できたこと。毎回指揮者の方が子どもたちの良いところを引き出してくださって、感動的な演奏会に仕上げていただいています。  
卒団生の中には音大を出てプロになった人などもいますが、多くは音楽を楽しみながら自分の特技を活かした分野に進んでいます。

—ホールがジュニアオケを持つことの意義、育成活動の目指すものについてどのように考えますか。

廣瀬 大きく3つの意義があると思います。1つは地域に根ざした独自の発揮。2つ目は人材育成というアカデミーとしての役割を劇場が持つこと。3つ目は県民の誇り、元気づくりに貢献することです。同じ県立の芸術文化短期大学と連携できるのが強みですね。

川瀬 まず音楽が好きだから得意な楽器を持ち寄って、学校とは違う友達を作る場所であること。そして一人一人経験も実力

も異なりますが、お互い認め合っていて、心豊かな子どもになっていく場所であってほしいです。

廣瀬 大分は16世紀後半、キリスト教と共に西洋音楽が日本でいち早く入り、明治には瀧廉太郎という大分ゆかりの音楽家も出た。そういう歴史的な流れがあることも、子どもたちや県民の皆さんに知っていただきたいですね。

—本年度の活動、演奏会についてはいかがでしたか。

川瀬 緊急事態宣言の後、オンラインで子どもたちとパート練習をする新たな取り組みを始めました。7月には講師による演奏会をさせていただき、今は対面での練習を始め、飛沫対策のパーテーション越しでも心は寄り添えるよう心掛けています。

廣瀬 8月の定演はコロナ禍後、半年ぶりにグランシニアタでの演奏会となり、「久々のオーケストラに



感動した」「元気をもらった」という声をたくさんいただきました。

—オーケストラの活動を通じて子どもたちに贈るメッセージを。

川瀬 音楽は長い歴史の中で戦争や革命があっても滅びることなく続いてきたものなので、音楽に携わっていることに誇りを持って取り組んでほしい。演奏会ではそのメンバーでしか出せない音を、一緒につくりあげてほしいと思います。

廣瀬 楽しむことが第一、でもちゃんと努力をして、周りに感謝の気持ちを持たずに。我々の課題は、ジュニアオケの存在をもっと知ってもらうこと。今夏は、楽器体験やジュニアオケと共演するイベントも検討しています。

川瀬 団員には、音楽が好きでみんなと一緒に音で遊べる子にたくさん来てほしいと思っています。みんな音を出すと、自分も上手になった気がするんです。私も子どもの頃そうだったんですけど(笑)。でも、そういうことから親しみを持ってくれたらいいなと思っています。定演は、1年間練習した成果としてレベルの高い演奏を披露しますが、スタートラインはみんな同じ初心者です。何か楽器に興味を持った初心者向けのアカデミッククラスもありますし、ぜひ一度見学に来てください。

### DATA

**iichiko グランシニアタ・ジュニアオーケストラ  
第12回定期演奏会  
3/28(日) ▶ iichiko グランシニアタ**

⌚ 14:00開演(13:30よりアカデミー生によるウェルカムコンサート開催) Ⓜ [全席指定]一般 1,000円、学生(高校生以下)500円、未就学児無料 ただし、要予約 ※4歳以上入場可、一般のみ友の会び割引あり Ⓜ 指揮/山脇幸人、管弦楽/iichiko グランシニアタ・ジュニアオーケストラ Ⓜ リスト/交響詩「前奏曲」、伊藤康英/管弦楽のための交響詩「ぐるりよざ」 龍笛:飯野護元、ドヴォルザーク/交響曲第9番 小短調「新世界より」  
Ⓜ iichiko 総合文化センター[(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団] Tel:097-533-4004